

## 第 2 回新人看護職員研修ガイドラインの見直しに関する検討会の主なご意見

## 1. 新人看護職員研修ガイドラインの見直しについて

## 【到達目標の修正案について】

- 「★」は「1年以内に経験し修得を目指す項目」と説明されているが「Ⅱ：指導の下でできる」や「Ⅲ：演習でできる」に「★」が付いている項目もあり、整合性がないのではないか。
- 「★」は「1年以内に到達を目指す項目」といった説明のほうが、わかりやすいのではないか。
- 到達の目安「Ⅰ：できる」は、「一人でできる」のほうがわかりやすいのではないか。
- 6「患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る」と修正した理由に「わかりやすい説明によって納得と同意が得られる」と記載されているが、納得が得られるような説明は難易度が高く、表現を見直すべき。
- 39「吸引」は気管内と口腔内、鼻腔内では難易度が異なるため、別の項目にした方が良いのではないか。
- 到達目標の細項目は各医療機関が状況に応じて設定するものとしているため吸引についてのみ細項目を設けることは馴染まないのではないか。各医療機関が細項目を検討しやすくなるように、難易度の低い順に、口腔、鼻腔、気管内の順に記載してはどうか。
- 現在、抗生物質という用語は用いられていないので、53「抗生物質の用法と副作用の観察」は抗菌薬などの表現が適切ではないか。
- 59「人工呼吸」は何を示すのかわかるような説明等が必要ではないか。
- 65「身体計測」は何を指すのか明確にしたほうが良いのではないか。
- 73「罨法」は医師は使用しないので意味がわかりにくい。

## 【到達目標の細項目作成プロセスの例示について】

- 資料1別添3の病院の例は急性期病院のほかにも中小規模病院や単科、療養型の施設など、ガイドラインに則った研修が困難な施設の例示もあると、より一層推進に貢献できるのではないか。

## 【評価時期・評価方法について】

- 資料1別添4の「2）評価時期」には「到達目標は1年間で到達するもの」と記載されているが、すべての到達目標の項目を1年間で到達しなければならないとの誤解を招く可能性があり見直すべきではないか。
- 評価方法の修正案である「患者からの評価」は、「指導者が口頭で患者の感想を求める」のようにマイルドな表現にした方がよいのではないか。
- 評価とは甲乙をつけるものではなく、重要なことはフィードバックを行っていくことである。このことをガイドラインの前文等に明記するとよいのではないか。
- 到達目標を自分で意識して振り返り、次の課題を見つけるという自己評価の力をつけていけるようにすることが重要である。

## 2. 新人看護職員研修の推進に関する課題について

○他施設の研修を活用する場合であっても、自施設としてどのような新人を育てたいか、どのような内容を身につけるべきか、といった自施設の計画を持つことは重要である。

○研修推進の要である研修責任者は自施設内で研鑽を積むことは難しいため県単位の集合研修が重要である。

## 3. その他

○二次医療圏別の看護職員不足のデータベースを作り、隣県との比較などを通して看護職員の定着促進を図るような取り組みが必要ではないか。